

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

評価対象事務事業名		安全美化条例に基づく生活環境の改善 <small>20年度予算コード</small>			7	整理番号	513	枝番号	
担当部課名	環境清掃部環境課	コード	300100		昨年度 整理番号	660・661・662			
係名	生活環境担当	連絡先 電話番号	3707						
上位施策名		No	15		生活環境の整備				
事務事業の概要	事業開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成	54年度		<input type="checkbox"/> 実施計画事業	分野	政策番号	施策番号	事業コード
	事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 一部新規 <input type="checkbox"/> 臨時・単年度 <input type="checkbox"/> 内部管理			<input type="checkbox"/> 行革計画事業	<input type="checkbox"/> 協働計画事業			
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他			根拠法令等				
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	吸殻のポイ捨てをなくすための各種啓発活動を行う。自発的に清掃を行う区民、事業者等を支援する。管理不良な空き地等の所有者に適正な管理を指導する。				(1) 杉並区生活安全及び環境美化に関する条例 (2) 杉並区生活安全及び環境美化に関する条例施行規則 (3) 杉並区あき地等の管理の適正化に関する要綱			
	活動指標名(式)	(1) 喫煙マナーアップキャンペーン参加者数 (2) 空き地・空家に関する苦情・相談件数				事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 区内全域で吸殻のポイ捨てをしないようにする。区内の公共の場等を清掃し区内全域をきれいな状態にする。管理不良な空き地等をなくし良好で快適な生活環境を維持する。			
		成果指標名(式) (代) = 適当な指標がない場合の代替指標				(1) 定点観測(中杉通り+高南通り)によるポイ捨て吸殻本数(一日あたりの平均値) (2) 適正管理率 = 適正管理数 ÷ 台帳搭載数			
指標	区分	単位	18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績	20年度 計画	目標値 22年度	目標値に対する19年度の達成率%	
	活動指標(1)	人	450	450	612	650	650	94.2	
	活動指標(2)	件	147	100	130	100	100	130.0	
	成果指標(1)	本	265	230	316	220	200	158.0	
	成果指標(2)	%	55	70	53	70	70	75.7	
総事業費・コスト把握	事業費	千円	37,618	49,903	41,202	53,181	特記事項 (指標、事業費等の 変化の理由など)		
	(内) 投資的経費等	千円	0	0	0	0			
	(内) 委託費	千円	29,719	39,493	34,354	40,941			
	職員数(常勤   非常勤)	人	3.35   0.31	3.35   0.30	3.35   0.30	3.35   0.50			
	人件費	常勤職員分(超勤分含む)	千円	30,351	30,619	30,619	30,619		
		非常勤職員分	千円	877	831	831	1,385		
	総事業費 + +	千円	68,846	81,353	72,652	85,185			
	単位あたりコスト( - ) ÷	円	152,991	180,784	118,712	131,054			
	財源	受益者負担分	千円	0	0	0	0		
		国・都等からの支出金	千円	0	0	0	0		
特定財源計 +		千円	0	0	0	0			
差引: 一般財源 -		千円	68,846	81,353	72,652	85,185			
受益者負担比率 ÷	%	0.0	0.0	0.0	0.0				
19年度の主な取組み	内 容		規模	単位	事業費(千円)				
	環境美化巡回指導業務(委託等)		一式		24,996				
	NTT柱巻看板作成・設置委託		224	本	2,117				
	路面標示補修委託		一式		2,016				
	自転車対策との合同路面標示		310	枚	2,100				
	その他 (東電柱巻看板設置、喫煙マナーキャンペーン、すぎ丸・エレベーターラッピング等)		一式		9,973				

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 513 枝番号

19年度予算執行状況 (節減努力・未達理由等)		活動指標(1)の 19年度達成率%	136.0	活動指標(2)の 19年度達成率%	130.0	19年度予算 執行率%	82.6
		節減・景観への配慮から自転車対策係と共同路面標示を作製・設置した。なお、路上禁煙地区案内板の設置工事、美化推進組織活動補助金の支出、除草作業委託の実績はなかった。					
前年度の改革案の取り組み状況 (20年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)		喫煙マナーアップキャンペーン月間を設けて集中的に啓発事業を行った。具体的には規定予算の範囲で、NTT柱・東電柱用巻看板の作製・設置委託、すぎ丸バス及び庁舎エレベーターへのラッピング貼付作業委託等の新規事業を行った。					
事業環境の変化	事業開始当初から 現在までの変化	平成12年から始まったクリーン大作戦や平成15年に指定した路上禁煙地区は、区民・事業者のなかで定着した感がある。また、空き地・空家の適正な管理を制度的に促すため、代執行の明文化や委託制度の創設が行なわれてきた。					
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待 ・要望・苦情など)	吸殻が少なくなり街がきれいになったという意見がある一方、路上禁煙地区以外では歩きたばこやポイ捨てが多いため、区内全域を路上禁煙にすべきという意見がある。また、管理不良な空き地・空家だけでなく、現住家屋に関する苦情も多く寄せられている。					
	今後の予測	定点観測上、喫煙者のマナーは向上傾向を見せており、長期的には歩きたばこやポイ捨ては減少していくものと推測される。また、敷地・家屋を管理できない高齢者の増加等、自主的な問題解決能力が低下している中で、区が対応を求められる案件は増えると推測される。					
事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きい 貢献度 大(理由 )	理由: 路上禁煙地区では顕著に歩きたばこ・ポイ捨てが減少している。また、空き地・空家の不良状態を解消することで、快適で美しいまちづくりの実現に貢献している。					
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる( ) 成果向上のための方策 その他(具体的内容 )	理由または具体的内容: 理由または具体的内容: 喫煙問題は様々な階層に絞った効果的な啓発活動を研究・実施できる余地がある。また、クリーン大作戦は今後、学校や事業所等に対しPRの拡大を図る余地がある。					
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	理由または具体的内容: 喫煙問題は受益者の範囲が抽象的かつ広すぎて現実的ではない。また、空き家等の問題は原因者に直接的利益がなく近隣住民を受益者とみなすことは困難である。					
	(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	理由または具体的内容: 最低限の経費で事業運営している。また、行政直轄で実施しなければ困難な業務を含め、経費の大部分が人件費であることを考慮すると、コストを下げる余地はない。					
協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している( ^ )	協働等の今後のあり方:		<input checked="" type="radio"/> 実施継続 <input type="radio"/> 推進 <input type="radio"/> 行政直轄			
	(2) 協働等の相手 企業・個人事業者( ^ )	協働等による成果と課題(実現していない場合は具体的理由と今後の方策) 路上禁煙地区における環境美化巡回指導業務は全面的に委託している。ただし、巡回指導業務員の資質の向上が必要である。					
	(3) 協働等の形態 委託 [業務量の50%以上に相当] (具体的内容 )						

今後の事業のあり方 (中長期)	成果: <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト: <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減
	(1) 改革案の概要(いつまでに、どうするか)    事業のあり方点検欄を踏まえて記入 路上禁煙地区の存在はかなり認知されてきているが、区内全域で歩きたばこやポイ捨てが禁止されているという認識はまだまだ浸透していない。この点の改善に今後重点的に取り組んでいく。環境美化巡回指導業務員のより効果的な運用を図るため、地域に密着した受託先がないか検討を進める。	
21年度方針	(2) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法 都市部であるため毎年一定数の住民の転出入は避けられないので、繰り返し地道な啓発活動を実施していくしかない。	
	(1) 21年度予算見積の方向性	<input type="radio"/> 大幅増 <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 増減なし <input type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし
(2) 理由 既定予算の範囲内で更なる工夫・改善が可能であるため原稿予算の範囲内で事務の効率的な執行を検討する。		

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

評価対象事務事業名		カラス・ねずみ・蜂類の駆除相談			20年度予算コード	9	整理番号	515	枝番号		
担当部課名	環境清掃部環境課		コード	300100	昨年度 整理番号	665・666・682					
係名	生活環境担当		連絡先 電話番号	3707							
上位施策名		No	15	生活環境の整備							
事務事業の概要	事業開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成	40 年度		<input type="checkbox"/> 実施計画事業 分野		政策番号	施策番号	事業コード		
	事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 一部新規 <input type="checkbox"/> 臨時・単年度 <input type="checkbox"/> 内部管理		<input type="checkbox"/> 行革計画事業		<input type="checkbox"/> 協働計画事業					
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 区民、事業者		根拠法令等 (1) 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律 (2) 杉並区ねずみ・昆虫・有害鳥獣等防除指導要綱 (3) 杉並区災害復旧対策実施要綱							
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	繁殖期に人へ危害を加えるカラスの巣を撤去しヒナの捕獲・卵の回収を行う。 ねずみ・昆虫等の駆除方法の助言及び駆除作業を行う。 水害時に直接又は委託により消毒作業を行う。		事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか) カラスの脅威を除去する等、安全で衛生的な生活環境を確保することで快適に暮らすことができるようにする。							
	活動指標名(式)	(1) カラス(巣及び幼鳥)駆除依頼に伴う出動件数 (2) 蜂の駆除依頼に伴う出動件数		成果指標名(式) (代) = 適当な指標がない場合の代替指標 (1) (2)							
指標	区分	単位	18年度		19年度		20年度	目標値	目標値に対する19年度の達成率%		
			実績		計画		計画	22年度			
	活動指標(1)	件	313		300		300	300	98.3		
	活動指標(2)	件	460		400		400	400	105.3		
総事業費・コスト把握	事業費	千円	1,995		7,032		2,355	8,682	特記事項 (指標、事業費等の 変化の理由など)		
	(内) 投資的経費等	千円									
	(内) 委託費	千円	1,542		5,858		1,755	6,909			
	職員数(常勤   非常勤)	人	1.80	1.25	1.80	1.00	1.80	1.00		1.80	1.50
	人件費	常勤職員分(超勤分含む)	千円	16,308		16,452		16,452		16,452	
		非常勤職員分	千円	3,538		2,770		2,770		4,155	
	総事業費 + +	千円	21,841		26,254		21,577	29,289			
	単位あたりコスト( - )÷	円	69,780		87,513		73,142	97,630			
	財源	受益者負担分	千円								
		国・都等からの支出金	千円								
特定財源計 +		千円	0		0		0	0			
差引: 一般財源 -		千円	21,841		26,254		21,577	29,289			
受益者負担比率 ÷	%	0.0		0.0		0.0	0.0				
19年度の主な取組み	内 容		規模	単位	事業費(千円)						
	カラスの巣の撤去作業委託		35	個	1,591						
	スズメバチ等の駆除作業委託		5	個	79						
	カラスの死骸処理委託		5	回	53						
	みどりの病害虫防除作業委託		0.25	台	32						
その他 (薬剤等の購入、機器修繕等)		一式		600							

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 515 枝番号

19年度予算執行状況 (節減努力・未達理由等)		活動指標(1)の 19年度達成率%	98.3	活動指標(2)の 19年度達成率%	105.3	19年度予算 執行率%	33.5
		区民からの苦情・要望に対する即時対応を重視した結果、困難な案件を除き、業務委託ではなく職員による対応処理となった。なお、河川の死魚回収処理、ユスリカ駆除及び消毒作業委託の実績はなかった。					
前年度の改革案の取り組み状況 (20年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)		19年度後半から、ハクピシン被害の苦情が多く寄せられたため対応策の調査を進めた。20年度からは、ハクピシンの捕獲許可を取得すると共に餌の交換等住民の協力を条件に檻の貸出を行う。					
事業環境の変化	事業開始当初から 現在までの変化	東京都は平成16年度でカラスの巣の撤去事業を終了し、現在、民有地に関しては、区が単独ですべての巣の撤去作業を担当している。ハチを含め昆虫類一般が不快害虫と見なされる傾向が強まっている。					
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	毎年カラスの繁殖期になると苦情・相談や巣の撤去要請が数多く寄せられている。また、区でも成鳥を捕獲すべきだという意見が寄せられることがある。					
	今後の予測	カラスの生息数は各種対策の効果でピーク時に比べ半減したとはいえ、カラスと人間の生活圏が重複している以上、抜本的な解決は困難で、今後も継続した対策が求められる。また、高齢者世帯の増加に比例して、ねずみの駆除相談がさらに増加すると推定される。					
事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きいか 貢献度 中(理由 )	理由:カラスの脅威を取り除いたり、衛生害虫を可能なかぎり駆除することは、安全で快適な生活環境づくりの一端をになっている。					
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる( ) 成果向上のための方策 対象の拡大(具体的内容 )	理由または具体的内容:ほとんどの苦情・要望に対応し解決に至っている。 理由または具体的内容:対象物は自然環境の生き物であるが、ハクピシン被害など新たな苦情・要望があれば、解決に向けて積極的に取り組む。					
	(3) 受益者負担の見直し余地は ある(具体的内容 )	理由または具体的内容:アシナガバチの駆除など、本来個人でも対応可能な案件まで、強い要望に基づき無料で対応している実態については議論の余地がある。					
	(4) コストを下げる余地はあるか ある [対象の縮小] (具体的内容 )	理由または具体的内容:(3)に関連して区で対応する案件を絞りこめれば経費は減少する。					
協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 一部実現している( ^ )	協働等の今後のあり方:		<input type="radio"/> 実施継続 <input checked="" type="radio"/> 推進 <input type="radio"/> 行政直轄			
	(2) 協働等の相手 企業・個人事業者( ^ )	協働等による成果と課題(実現していない場合は具体的理由と今後の方策) 現在でも職員では対応困難な案件に関しては外部委託を実施している。今後、機動性を確保しつつ、いかに委託案件を増加させるかが課題である。					
	(3) 協働等の形態 委託 [業務量の50%未満に相当] (具体的内容 )						

今後の事業のあり方 (中長期)	成果: <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト: <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減
	(1) 改革案の概要(いつまでに、どうかたちに)    事業のあり方点検欄を踏まえて記入 前年度と比較して委託案件を確実に増加させていく。駆除などの依頼のうち個人で十分対応可能な案件について、区としてどのように対処すべきか検討を始める。	
21年度方針	(2) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法 緊急避難的な対応が多いため、委託による場合は機動性に欠けるきらいがあり、サービスの低下を招くおそれがある。委託業者の選定及び連携方法を十分に検討する必要がある。	
	(1) 21年度予算見積の方向性	<input type="radio"/> 大幅増 <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 増減なし <input type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし
	(2) 理由 大きく方針を転換する必要性は見当たらない。	